
第二回 荒川区区政改革懇談会

グループ討議会議録：萌黄

【日時】

8月10日(木) 19:00~21:00

【場所】

荒川区役所 庁議会室

【次第】

ステップ1：はじめに

ステップ3：本日の話し合いの内容確認

ステップ2：荒川の良い点・悪い点を話し合う

ステップ4：その他

ステップ1：はじめに

【前回の話し合いの内容確認】

第1回萌黄グループ討議会議録により、前回の話の内容確認がなされた。
ホームページの議事録に写真を載せることが了承されたことを確認。

【自己紹介】

前回同様、自己紹介を行なった。

【今回の話し合いの進め方】

配布資料の確認と話し合い内容の説明を行った。

ステップ2：荒川の良い点・悪い点を話し合う

【荒川区の良い点・悪い点の検討】

はじめに「安全で清潔な住みよいまちづくり」というテーマにそっての荒川区の良いところ・悪いところについて前回の宿題を参考にポストイットに書いてもらい、それを模造紙に張りながら委員に説明してもらった。

(近所づきあい)

- ・ 困ったときに、相談したり、頼りにできる。
- ・ 気取らずに暮らせる。
- ・ 人情味がある。
- ・ 下町情緒のある町。
- ・ 近隣との交流がきめ細かいこと。
- ・ 親切が過剰な時がある。
- ・ 年代層がそれぞれに混ざって住んでいる。
- ・ 高齢者が多い。

- ・ 下町らしい近所づきあいがある。
- ・ 町会を通して助け合いがある。
- ・ マンションの住民は町会単位のことには参加しない。
- ・ マナーの悪い若者等に注意しても、受け入れられないことがある。若い世代とどうつきあっていくかが問題である。

（災害対策）

- ・ 高齢世帯が多くなってきたので、(子どもさんが他区に住んでいる方が多い)対処の仕方について、住民に負担がかかる。
- ・ 地震対策について、避難マップが町会単位で区から配られたが、役員の高齢化が進み町会単位でやれるのか心配である。
- ・ 地震のときに助け合うことは難しい。自分の家族が一番であるし、若い人が少なく、他人の家庭を助けることはできない。
- ・ 地盤が低い荒川区にたくさんのマンションが建ち、心配である。
- ・ 町会単位の避難場所が不適當と思われる場所がある。(たとえば、ガード下等)
- ・ 町会にレスキュー隊がいて、訓練している。
- ・ 町会の避難訓練に参加を呼びかけることが大事である。
- ・ 建築違反や植木を道路に出している家等あり、消防車や救急車が通れない道路がある。

（町並み）

- ・ 街灯が少ない。まちが暗い。街灯は町会の管理と区の管理がある。蛍光灯が切れたとき連絡しても、すぐ取り替えてもらえるときと、なかなか取り替えてもらえないときがある。
- ・ 地区によって町内会の取り組みが弱い。

（公園）

- ・ 汚水処理場の上にある荒川自然公園は、他区の区民がうらやむほど良い公園である。
- ・ 荒川遊園地は唯一の区立遊園地。
- ・ 公園にゴミ箱がないので、ゴミが散らかっている。

（緑化）

- ・ 屋上の緑化と雨水の有効利用等への取り組みを区がするべきである。墨田区ではドラム缶の無料貸し出しを行い、雨樋から直接、雨水をため利用する取り組みがなされているようである。最近言われている、ビルやマンションの屋上の緑化も進めるべきだと思う。
- ・ 花ちゃんネットワークをもっと広げたら緑化できる。

（放置自転車対策）

- ・ 放置自転車の問題は、もっと区が積極的に取り組むべき問題だと思う。今はシルバー人材センターの人が自転車を整理しながら、止め方等の注意をしているが、権限を区からシルバ

一人材センターの人に与えとか、買い物等で短時間置ける無料駐輪場を確保するなど対策を考えるべきである。他区の人も置いている。

- ・ 駐輪禁止区域が多すぎるので、駐輪場を整備して欲しい。
- ・ 各駅周辺の自転車対策が大変遅れている。区の職員が現場を見るなどして実態を知って欲しい。

（犬猫問題）

- ・ 住民にモラルのない人がいる。生ゴミは月・木に来るのに日曜日に出している人がいる。
- ・ ノラ猫が増えて困っている。
- ・ 犬の散歩をする人の中にエチケットを守らない人がいる。

（雨水の有効利用）

- ・ 雨水の有効利用を推進して欲しい。

（福祉）

- ・ 熊野前の都営住宅は壁に電話が取り付けられてあり、ベッドの横に移すこともできず高齢者には不便である。
- ・ さくらハイツでは、ひとり暮らし高齢者の住宅に一つずつお風呂があるが利用していないようなので、集団浴場にした方がよいと思う。
- ・ 高齢者の福祉施設が少ない。土地もないし、財政面も悪い。学校の跡地を使おうとしても、そこを管轄する省庁（文部科学省と厚生労働省）がちがうため、高齢者用の施設にできない。
- ・ 若い世代の家庭に対する住宅への援助を行えば、若い世代も住み着くのではないか。区で借り上げた都営住宅に障害者や高齢者を優先するだけでなく、若い世代も優先的に入居させた方がよい。台東区では若い世代の家庭への住宅援助を行っている。
- ・ 高齢者対策に力を入れている現状から、子育て世代が住み着く地域になるような支援に重点をおく方向に移行した方がよいと思う。
- ・ 小学校がなくなったら、高齢者施設にすればよい。

（教育）

- ・ 子供会を活発にした方がよい。
- ・ 保護者会に出席しない保護者が多い。
- ・ 他区への越境入学が多い。
- ・ 文京区等のイメージの方が高い。

（子育て）

- ・ みんなが見てくれるので子どもを育てるときに安心できる。
- ・ 他区は子育てへの支援に力を入れているところがある。荒川区は子育て支援や教育面で、

他区に劣っている点があるのではないか。

- ・ 子どもが少ない。
- ・ 子どもを育てている母親たちの態度に問題がある。
- ・ 子ども達が、挨拶は交わすが、ありがとうの言葉が少ない。

(区への要望)

- ・ ひったくりや光化学スモッグの情報を流す区の広報のスピーカーが聞き取りにくい。スピーカー以外の方法で伝達した方がよい。
- ・ ミニ FM などを作って流したらどうか。

(荒川区のイメージアップについて)

- ・ ボランティア活動の促進を考えるべき。(イメージアップにつながる)
- ・ 荒川区のイメージが悪いのではないか。イメージアップにつながることをPRする。
- ・ 日暮里駅の改修工事も進んでいるし、もっとPRして他区の人の立ち寄りを促すべき。
- ・ 荒川区は都心に近く便利なので、もっと区をアピールして欲しい。

(その他)

- ・ 住居費にかかりすぎる現状では若い世代が荒川区に住めない。

ステップ3：今日の話し合いの内容確認

本日の話し合いの内容確認がなされた。

ステップ4：その他

【次回について】

次回は、今回の続きを話し合ってから、「こうなって欲しい荒川の将来のまちの姿」へ進めたい。
次回までに、「こうあって欲しいまちの姿」について考えてきてほしい

日程は9月17日(土)の10時より。